保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人　檸檬会
施設名	レイモンド汐見丘保育園
報告者(役職)	花島　慶子　(園長)
住所・連絡先	千葉県千葉市中央区汐見丘町24－1
	☏　043－310－3296 E-mail

○タイトル(保育計画)

柔軟な心と身体を育て、自らを表現する心地よい居場所を創る

○主な助成備品

巧技台Cセット・マジックマット・隠れあなぐら・ポップアップサッカーゴール・イーゼル・グローブ造形キャビネット・ミラーハウス

１．保育計画策定の目的

当園は保育園・学童クラブを一体的に運営する施設である。そのため0歳児から小学校卒業まで最高 12 年という長期間に渡り子どもたちに生活の場を提供し、子どもたちの成長とともに保育士自身も歩むことができる。歩くことが少ない現代の子どもたちの発達を思うとバランス感覚を養い、体幹を鍛える「運動遊び」は、乳幼児期の発達において重要であると考える。そのため日々の保育内容に「巧技台・マット運動・リズム運動」等、楽しみながら体幹機能を鍛える遊びが行える環境を設定したい。更に自らを表現する心地よい居場所を創ることを目的とし、今回の助成を利用して「イーゼル・ミラーハウス・隠れあなぐら」を用いた保育実践を計画した。

２．具体的な実施内容

具体的実施内容を備品ごとに提示する。

【巧技台・平均台】

乳児は斜面や段差を作ると何度も上り下りを楽しみ、マットを組み合わせて作った山を頂上まで登ると力いっぱい坂を滑り降りる。

幼児はバランスをとりながら手足を使って船漕ぎをしながら進んでいく。

繰り返し挑戦する事で両手を横に広げ自信をもって巧技台の上を力強く歩く姿が見られた。

【マジックマット】

　四つん這いが安定し始めた乳児が身体の動きを感じて楽しめるよう、マットに高低差をつけた。不安定であった子も繰り返し上り下りを楽しむとダイナミックに挑戦する姿へと変わった。

　「やきいもごろごろ‥」幼児は一人ひとりが自由に全身を動かす。回転のスピードも方向も自由自在。思わず笑みがこぼれます。

【隠れあなぐら】

　子どもたち一人ひとりのあなぐら遊びの姿は多様だ。好きな玩具を中へ持ち込み、一人の空間で安心する姿。「いない、いない、ばあ」遊び、出入りを繰り返す中で見え方の違いを確かめる姿。周囲の丸い穴や垂れ布から外を覗き込み他者の存在に気づき遊びが変化していく。（1 歳児）

【サッカーゴール】

サッカーゴールの使用も年齢に応じて多種多様。サッカーゴールの網にエデュコチェーンや風船を取り付けると、ゴールを目掛けて這う事やチェーンを手で力強く引くなど、全身を使った遊びへと展開する。

幼児はサッカーゴールに向かい、思いのままにボールを蹴るが、ゴールに入らないことが続くと自ら距離を考え、蹴る前に足でボールを止めてから慎重に蹴るなど、自ら探究する姿が見られた。

【イーゼル】

イーゼルに向かい、腕や手を自由に伸び伸びと動かし、思いのままに描いていく。クレヨンで描いた形を指差して、自らイメージを膨らませ、目を輝かせて表現する。イーゼルは、描くだけでなくクラスの活動、友達との遊びの中で調べた内容を文字に起こし、ウェブマップ（図１参照）を作ることにも活用した。

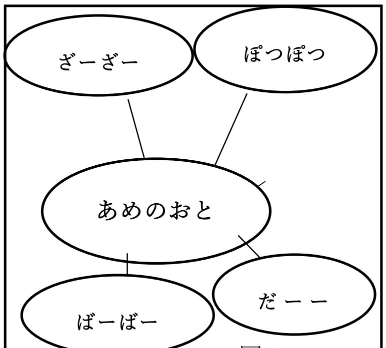
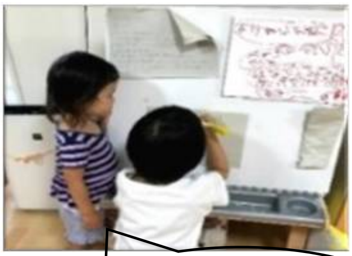


図１



【グローブ造形キャビネット】

グローブ造形キャビネット内には、子どもたちが一人で使用できる筆記用具（ペン・色鉛筆・クレヨン）・紙（画用紙・藁半紙、新聞紙）・ハサミ・のり・リボン・絵画セット等を設置した。グローブ造形キャビネットを保育室へ設置したことで、子どもたちが主体的に遊びや素材を選択し、自分のイメージの通り作品を創りあげる姿があった。

【ミラーハウス】

鏡を繰り返し見る事で映っている自分を認知し、様々な角度から映し出される表情や動きの違いを楽しんでいた。

ばいば～い

わたしが
いっぱ～～い

３．その成果と評価

助成備品を各年齢別クラスに順次設置し、一人ひとりの子どもの成長、発達の姿から備品の使用方法を観察した。子どもたちの遊び込む姿から、備品はそのものの利用方法の他に何通りもの利用手段があることを感じた。その成果と評価は次の通りである。

【巧技台】

巧技台を組み合わせてサーキットを設置すると、初めは自信がないのか保育者の手を借りて渡っている子どもも繰り返し行う中で一人ひとりが感覚を掴み、徐々に「一人でやってみたい」という言葉を発するようになる。幼児クラスでは、平均台、巧技台を通して、バランス感覚や注意力、集中力などを身につけることに繋がり、成功すると「またやってみよう」と思えるチャレンジ精神が芽生えるきっかけになった。また、友達を応援する姿や互いに認め合う姿も見られた。２歳児クラスは、幼児クラスが取り組む姿を見て興味を示し、保育者の手を借りながら平均台を渡り、自らが今できる手法で積極的に参加した。巧技台を日々の保育に取り入れることで年齢に応じて多様な動きを経験することができた。目的意識を高めることで達成感を味わい、自らに自信を持ちルールのある遊びから社会性を培う事に繋がっていくと感じた。

【マジックマット】

マジックマットは全年齢に適応した。単体でも十分利便性に長けているが、他の物との組み合わせや、本体を変形させることで活動内容が広がる。またマットはあらゆる運動機能を高める事ができるものだと痛感した。普段動くことや運動することに対し苦手意識がある子どもも、マット上では抵抗なく身体を動かして遊べるようになり、基本的な体力の向上や一人ひとりの自信にも繋がっていった。マットがあることでの安心感が自然と挑戦する力を子どもたちに与えると感じた。

【隠れあなぐら】

生活の場面で不安定な行動が見られていた子どもも、あなぐらを取り入れてからは一人になれる空間が見つかり、気持ちの切り替えができるようになった。あなぐらという空間は胎内回帰感のように安心感が得られる効果がある一方で、薄暗く狭い、非日常を体感できる場という点で子どもたちのわくわく感やときめき感も刺激してくれる。その刺激が想像力を引き出し、他者と関わるきっかけや共感へと繋がり、遊びを発展させていった。

【ポップアップサッカーゴール】
ポップアップサッカーゴールは、徐々にボールとサッカーゴールの感覚を掴み始める過程が見られた。年齢に応じて工夫して設置することで一人ひとりの発達に合った内容で遊ぶことができ、また子ども自身の運動性を高めることへと繋がった。
【イーゼル】
イーゼルを保育室へ設定したことで、描きたいときに自由に描くことができ、子どもが主体的に描画を楽しむ姿があった。主体的に取り組むことで、自由に表現し、完成した時には達成感に溢れた表情を浮かべていた。3歳以上児では、調べものコーナー付近にイーゼルを設置することで調べた内容をメモし、子ども同士で会話を楽しむようにアイディアを出し合いながら、ウェブマップを作る姿が見られた。イーゼルは今後も多くの生活場面で多彩な活用が考えられる。
【グローブ造形キャビネット】
造形キャビネットは幼児クラスに設置した。キャビネットに設定された素材や教具を主体的に選択し、自らの想いを作品として表現する。目的を持って主体的に選択することで遊びの終わりには、自ら片付けにいく姿が見られた。また、作品を作るにあたって、自分の作品に適しているものは何か、遊びに必要な素材を探求する姿に成長を感じることができた。
【ミラーハウス】
光の反射が楽しめるように窓際に設置した事で、乳児はミラーハウスの中に映し出される「自分」の存在に気付き、鏡に映る「自分」に驚きながらも興味を示し、手を伸ばす姿や他児と一緒に鏡を覗き込む姿が見られた。また、遊ぶことに慣れると表情や手の動きを変え言葉を発するなど「自分」と対話し、喜ぶ姿が見られた。幼児はミラーハウスに映る様々な「自分」を見つめ、観察する姿や光と色の混ざり合いに興味を示し、色水やカラーセロハンを使用して楽しむ姿が見られた。遊びを通して、光と色の混ざる様子を探究する事で自然に『色を感じ取る』『色を使いこなす』を育て、色彩感覚が豊かになる事にも繋がると感じた。
４．今後の課題と展望
助成して頂いた備品を保育室や園庭に設置すると、子どもたち一人ひとりが興味を示し、他者と共通のイメージを持ちながら遊びを展開していく姿が見られた。展開していく中で、「素材を取り入れる」、「見立てる」等、子どもたち自身の学びにも繋がった。今後も、子どもたちの遊びが更に充実できるよう、その時々の子どもの動き、表情、つぶやき等を保育者が逃さずに受け止め、遊びを通して日々成長していく子どもたちの姿に目を向けていきたい。また、遊びは乳幼児期の成長に最も大切な歩みであるため、子どもの遊びに応じて備品の設置場所を検討し、魅力ある保育室をデザインすることで環境を通して探究心が芽生える働きかけを考えていきたい。
参考文献：佐藤剛「感覚統合Q＆Ａ」協同医出版
ｷｬﾛﾙ･ｽﾄｯｸ･ｸﾗﾉｳｲｯﾂ「でこぼこした発達の子どもたち」すばる舎
花島慶子「感覚統合のアセスメントの視点を導入した保育活動」2003年